

科目名	子ども家庭支援論				担当	市東 賢二		
形態	講義	単位数	2	開講時期	2年前期	実務経験	—	
必修	保育士：必修				ナンバリング	Y1105	DPとの関連	2
授業概要	家族・家庭とは何かを家族の変遷をみながら把握し、そこから生じる子育ての課題や不安を理解する。そして、保育者として家族・家庭への具体的支援を考えることが可能になることを目標とする。							
到達目標 学習成果	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する 2. 保育の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する							
授業計画	回	内容						
	1	子ども家庭支援の意義と役割①	子ども家庭支援の意義と必要性					
	2	子ども家庭支援の意義と役割②	子ども家庭支援の目的と機能					
	3	保育士による子ども家庭支援の意義①	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義					
	4	保育士による子ども家庭支援の意義②	子どもの育ちの喜びの共有					
	5	保育士による子ども家庭支援の意義③	保護者及び地域が有する子育て支援を自ら実践する力の向上					
	6	保育士による子ども家庭支援の意義④	保育士に求められる基本的態度(グループワーク)					
	7	保育士による子ども家庭支援の意義⑤	家庭の状況に応じた支援(グループワーク)					
	8	保育士による子ども家庭支援の意義⑥	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力(グループワーク)					
	9	子ども家庭に対する支援の体制①	子育て家庭の福祉を図るための社会資源					
	10	子ども家庭に対する支援の体制②	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進					
	11	多様な支援の展開と関係機関との連携①	子ども家庭支援の内容と対象					
	12	多様な支援の展開と関係機関との連携②	保育所等を利用する子どもの家庭への支援(グループワーク)					
	13	多様な支援の展開と関係機関との連携③	地域の子育て家庭への支援(グループワーク)					
	14	多様な支援の展開と関係機関との連携④	要保護児童等及びその過程に対する支援(グループワーク)					
15	多様な支援の展開と関係機関との連携⑤	子ども家庭支援に関する現状と課題(グループワーク)						
評価基準	①子育て家庭に対する支援の意義を説明できる ②保育の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と基本について説明できる ③子育て家庭に対する支援の体制について説明できる ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について説明できる							
評価方法	期末試験 60% その他 40% (授業内で指示する課題の内容を評価)							
フィードバック 方法	授業中の課題は、採点后返却し、講評する							
アクティブ ラーニング	グループワーク							
教科書	『家庭支援論の基本と課題』井村圭壯・松井圭三編著／学文社							
参考書	講義中に提示する							
履修条件	特になし							
授業外学習	事前学習：授業計画で示された事項について、日常的に好奇心をもち、読書（教科書関連箇所含む）や友人との討議の機会をつくり思考を深めること 事後学習：授業で扱われた事項に関する学びと自己の課題を考察すること							
オフィスアワー	3階第9研究室 citeaux@uedawjc.ac.jp							